

『神が受け入れてくださる礼拝・2』 '20/05/24(ライブ礼拝) 聖書箇所:ローマ人への手紙 12章 1節(新約 p.308)

皆さん、おはようございます！実は先週、私は「尿路結石」を患いまして…、そのせいで、礼拝を休むなど、皆さんに、大変なご心配とご迷惑をお掛けしてしまいました。本当に申し訳ありません…。実は、その結石は、まだ私の体の中にあるかも知れないので、今も、いつ、あの激しい痛みが来るかとピクピクしております(苦笑)。ま、そんなこともあって、改めて、私たちは、普段自分が、どれほど恵まれているか、ということをお教えされた次第であります。皆さんだって、普段は、あまりの痛みのために悶絶したりしないでしょ(笑)？

ま、そんなことも含めて…、今日もまた、精一杯の感謝をもって、今からの礼拝をご一緒にお捧げいたしましょう！まずは、賛美集 22 番、「生ける限り主を」を2回繰り返して賛美いたします。

<メッセージ>

前回、私たちは、とっても大切なテーマである「礼拝」ということについて、学ぶ機会を持ちました。…と云いますのは、私たちクリスチャンたちは、意外に、適当に礼拝を持ってしまっているからです。良いですか？皆さん？前回は学んだように、礼拝とは、私たち救われた者たちが、神様にお捧げしているものなのです。…ということは、つまり、そこで、1番大切なのは、その神様が、その礼拝を喜んでくださっているかどうか？受け入れてくださっているかどうか？ではないでしょうか？

もしも、私たちが、「私は、こうしたいから！私は、こんな礼拝を捧げたいのです！」と言って、礼拝を捧げておられるなら、それは、「神様を中心とした、神様のための礼拝」ではなくて、「自己中心的な、あなたのための礼拝」とは言い得ないでしょうか？…果たして、そのような礼拝を、天の神様は喜んでくださるのでしょうか？…どう思われます？

命題: 真の神が受け入れてくださる礼拝とは、どのようなものでしょう？

どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ローマ 12:1 をお開きください。ここから、私たちは先週に続けて、真の神様が受け入れてくださる礼拝について…、私たちの神様が喜んでくださる捧げ物について、ご一緒に学んでいきたいと思えます。前回は、やや神学的と言うか、聖書解釈の傾向が強かったかも知れませんが、それに対して、今週は、できましたら、もう少し実践的なことを、皆さんと一緒に学んで参りたいと思えます。

そうして、私が願いますのは、今日、このメッセージを視聴して下さった皆さんが、私たちが捧げるべき「本当の礼拝」というものに、ますます目覚めて下さって…、今後ますます、私たちの神様に喜ばれるような歩みを…、日曜日の礼拝だけでなく、私たちの生き方において継続して頂くことなのです。さあ、それでは、まず、今回与えられた、ローマ 12:1 のみことばをお読みいたしましょう。そこには、このように記されてあります。

1 そういわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。

I・救われた者が捧げる礼拝！

まずは、私たちが前回に学んだことを、できるだけ簡単に復習していきたいと思えます。このみことばから、私たちが最初に学んだこと…、それは、正しい礼拝に関する「対象」、つまり、**私たちの礼拝が神**

様に受け入れられるためには、まず、私たちが“救われたいといけない！”ということでした。つまり、天の神様は、“救われた”者が捧げる礼拝だけを喜んでくださるのです。まずは、そういったことを今から確認していきたいと思えます。

●神が受け入れてくださらない礼拝？

皆さん、覚えてくださっていますか？…少し前、私たちは、ヨハネ 4 章に記されてある、あの「サマリヤの女」に関するエピソードから、イエス様が発せられた、こんなみことばを学びましたでしょ？ヨハネ 4:23-24、『23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのように人々を礼拝者として求めておられるからです。24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。』って…。

良いですか？皆さん！天の神様は、『真の礼拝者』を求めておられるのです！天の神様は、私たちが「真の礼拝者」となって、生きていくことを願っておられるのです。…でも、そのすぐ後でイエス様が教えてくださっているように、そのために必要なことは、私たちが“霊とまことによって礼拝”しなければならないのです。ここで言われている『霊』とは、純粋に神様だけを愛そうとする思い…、生き方です。また、『まこと』というのは、神様から教えられたみことばであり…、正しさであります。天の神様は、それら両方を持った礼拝者を願っておられるのです。…ということはつまり、私たちが、ただ何となく、礼拝を捧げて…、ただ、何となく、礼拝の時間、礼拝堂に座っているだけの礼拝を、神様は決して喜んでくださりません。

今日のみことばをご覧くださいとも分かる通り、ローマ 12:1 には、『神に受け入れられる…(供え物)』という表現があるように、いくら、私たちが大きな犠牲を払ったとしても…、あるいは、多額の献金を捧げたとしても…、あるいはまた、どれほどの素晴らしい賛美であったとしても…、もしも、それらの捧げ物が、神様のみことばに適ったもので無ければ、それは神様に受け入れられない！ということをお私たちは、しっかりと肝に銘じておくべきです！

ですから、もしまだ、この聖書が教える真の神様を信じておられない方が、この礼拝をご覧になっておられるなら、あなたが1番にすべきことは、まず、あなたが、自分の罪や過ちを悔い改めて、真の神であり…、私たちに唯一与えられた救い主でもあるイエス様を信じ受け入れてくださることです。それなしに、あなたが、神様に喜ばれる礼拝を捧げることはできません。

だから、ヘブル 11 章には、こう教えられてあります、『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。…』(ヘブル 11:6)って…。神は、あなたが信仰を持ってくださることを願っておられるのです。…と云いますのも、まだ信仰をお持ちでないあなたは、まだ、頑なであるからです…。あなた自身が、この神様のことを拒んでいては…、その神様に喜ばれるような礼拝を捧げることはできません。…ですから、どうぞ、この神様の前に、あなたの心を開いて、神様のみことばを素直に受け入れていただきたいと思えます。

●救われたあなたに、神が願って えられること

そうして、今度、救われたクリスチャンたちに対して、神様が“願って”おられることが、「礼拝」であります。しかも、敢えて言わせていただきますと、それは「本物の礼拝」でなければなりません。どうぞ、もう1度、今日のみことばである、ローマ 12:1 をご覧くださいませ？…そこには、『そういうわけですから…』とか、『私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。…』とあります。前回、私たちが学んだように、このみことばが教えてくれていることは、「それまでの流れを受けて、こうなることが自然である！」というような言い方がなされてあります。…つまり、本当に救われた者は、必ず、神様への感謝があるがゆえに、この神様のことをあがめたい！礼拝したい！ということをお思うはずだ、ということが教えられてあるのです！それこそが、本当に救われた者たちの“自然な姿”なのです。

クリスチャンの皆さん。果たして、今、皆さんには、そのような思いがあるでしょうか？「この神様のことをあがめたい！こんな私を救ってくださった神様に、精一杯の感謝を表わしたい！この神様に喜ばれるよう、歩んでいきたい！」って…。もしも、そのような思いが、礼拝に来られるあなたの心の中心に無いならば、それは、ひょっとしたら、あなたの信仰を今一度吟味されることが必要なかも知れません。

II・真の礼拝とは、**受ける**ものではなく、**捧げる**べきものである！

そして、礼拝ということを語る上で、決して外せないものは、その「礼拝に参加する時の動機×2」であります。真のあるべき礼拝とは、私たちが「受ける」ためのものではなくて、「捧げる」べきものである！ということです。これは、一体、どういうことなのでしょう？

●多くのクリスチャンたちが **間違っ**て **持っ**てしまっている、**礼拝に対するイメージ**

今日のみことばの後半には、『**それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。**』と書かれてあります。実は、ここで言われている『**霊的な**』という意味は、今、私たちが時々使うような「スピリチュアル」という意味ではありません。これは、「道理にかなった、理屈が通った、合理的な、(どちらかと言うと感情的でない) 理性的な…」というような意味の言葉が使われています。つまり、神様の憐れみによって救われた私たちが、自然と、神様へ自分自身のことを捧げる…、それこそが道理にかなった反応であり…、それこそが本来の礼拝のあるべき姿だと、この聖書のみことばは教えるのです！

だから、聖書に使われてある「礼拝」という言葉の主要なギリシャ語の言葉である、「プロスキュネオー(προσκυνέω)」という言葉と、「ラトリュエー(λατρεύω)」という言葉、これらは両方とも、「礼拝する、捧む、ほめたたえる…」というイメージの言葉なのですが、これら両方とも、「相手側に“捧げる”」というイメージを持っているのです。

良いですか、皆さん？…「捧げる！」という意識こそが、私たちが礼拝に参加する時に、最も必要な動機であり…、聖書が教えてくれている“正しい目的”なのです！でも、だからと言って、どうか、皆さん。皆さんが、これまで数多くの礼拝に参加されて、そこで預かった祝福や教えられた、たくさんの恵みがあるからと言って、どうか、そのことで悲観しないでください。私は今、ここで、そういった祝福について“否定したい”わけでは全くありません。私が言いたいのは、「あなたは、自分のために…、言わば、自分の損得(利益)のために、礼拝に参加されているのですか？それとも、神様のために…、神様に喜んでいただきたいから、礼拝に参加されるのですか？そのどちらでしょうか？」ということなのです。

…と言いますのは、もしも、私たちが自分自身のために、礼拝に参加しているのだったら、果たして、それを、“神様のための”礼拝だと言うべきでしょうか？もしも、あなたが、自分自身が何かを得ようとして、礼拝に参加されているのだとしたら、正直、それは、神様のためではなくて…、あなたのための礼拝ではないでしょうか？

実は、ここ最近、「礼拝の本質」について、あまり教えらるる教会が少ないために、このような聖書的な動機について、よく理解できていないクリスチャンが増えてきた傾向が、全世界的に見られます。彼らの多くは、自分がより聖書の真理を知りたいからとか、自分たちが祝福を受けたいからとか、あるいは、元気になるためとか、そういった理由のために、礼拝に参加しようとする。もっとひどい場合には、自分の病が癒されるためとか、ビジネスが上手くいくようにとか…、全く、何のための礼拝が分からないほどです。でも、残念なことは、そういったことを教えている教会が、特に、アメリカでは急成長していて、いえ、アメリカだけでなく…、ここ日本でも、そういった教会が増えつつあるのです。…信じられないでしょ？

●礼拝の **本質**

そこで、どうか、皆さん。今一度、「礼拝の本質」ということについて、考えてみてください。「本質」とは、「物事の根本的な性質や要素のこと。そのものの、本来の姿。」です。つまり、それが無いと…、あるいは、そのことを私たちがしっかりと理解できていないと、全く、本来の意味を失ってしまうかも知れないような重要なことです。

例えば、今日のみことばの後半部分をご覧くださいと、そこには、『**…あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。**…』とあります。確かに、ここでも、『**ささげなさい！**』とあって、礼拝の本質についても教えてくれているように思います。

じゃあ、私たちは、一体、どのようなものを捧げていくべきなのでしょう？…今から、聖書の中に記されてある、代表的な捧げ物をいくつか簡単にご紹介させていただきます。聖書の箇所は開けてくださなくても結構なので、もしできましたら、聖書の箇所だけ控えておいてください。まずは、1ペテロ2:4-5、『**4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。**』

⇒『**霊のいけにえをささげなさい！**』とあるように、ここでも、私たちが捧げるべき捧げ物について教えられています。あのヨハネ4章で、イエス様が教えてくださったように、天の神様は、「霊的な御方」です、私たちが物質を御持ちではありません。それゆえに、神様に捧げるべき捧げ物は、物質的なものではなくて…、霊的なものでなくてはならないのです。

今度、ヘブル13:15-17は、**できましたら、聖書を開けてみてくださいか？そこには、こうあります。**『15 ですから、私たちはキリストを通して、**賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではありませんか。16 善を行うこと、持ち物を人に分けること**を怠ってはいけません。神は**このようないけにえを喜ばれるから**です。17 **あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。**この人々は神に弁明する者であって、あなたがたのたましいのために見張りをしています。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にならないからです。』

⇒まずは、15節、そこには、『**賛美のいけにえ、すなわち御名をたたえるくちびるの果実**』を神に捧げようではありませんか！ということが教えられてあって、私たちの捧げる賛美を、神様が喜んでくださるということが教えられています。しかし、先程も確認したように、神様は「霊なる御方」です。神様は、私たちが捧げる賛美の声以上に、その心や思いを喜んでおられるのではないのでしょうか？

⇒また、16節には、「**善を行なうこと、持ち物を人に分け与えること**」つまり、善行や慈善活動もまた、神が喜んでくださるいけにえであると教えられています。また、その後の17節、そこでは、教会の指導者たちに服従すべきことが教えられています。いえ、命じられています。このように、神様の前に正しいことをしていくこと…、神様が喜んでくださるような行ないをしていくこともまた、神様が喜んでくださる「ささげもの」なのです。

また、今度は、旧約聖書の詩篇51篇を紹介いたします、『**14 神よ。私の救いの神よ。血の罪から私を救い出してください。そうすれば、私の舌は、あなたの義を、高らかに歌うでしょう。15 主よ。私のくちびるを開いてください。そうすれば、私の口は、あなたの誉れを告げるでしょう。16 たとい私がささげても、まことに、あなたはいけにえを喜ばれません。全焼のいけにえを、望まれません。17 神へのいけにえは、砕かれた霊。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをささげずまれません。』(詩篇51:14-17)**

⇒皆さんも、よくご存知のように、この詩篇 51 篇は、表題を見てくださったら分かる通り、あのダビデが、バテ・シエバとの間に大きな罪を犯して、それを悔い改めた時のものです。確かに、ダビデが大きな罪を犯した時、神は大きく怒られました…。しかし、天の神様は義なる御方であると同時に、「赦しの神」でもられます。だから、ダビデが、心から自分の罪を悔いて、それを神様に告白した時、それを神様は喜んでくださるのです。…ここで、ダビデは、そういったような真の悔い改めもまた、神様が喜んでくださる捧げ物である！ということを教えてくれています。

また、箴言 15:8 には、『**悪者のいけにえは【主】に怒みさらわれる。正しい者の祈りは主に喜ばれる。**』とあって、私たちの捧げる祈りもまた、神様が喜んでくださるということが教えられています。…ただし、その人が、悪者でない…、つまり、神様に喜ばれている者であるということが条件です。

また、新約聖書の**ピリピ 4:18** には、『**パウロが、ピリピ教会からの献金に感謝して、こんな言葉をかけています。『私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ばしいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。』**』って…。皆さん、聞いてくださいました？このように、私たちが、神様に喜ばれるように捧げた献金もまた、神様への捧げ物であるということが教えられています。

もちろん、これらがすべてではありません。しかし、これらのみことばを見て、ある程度、皆さんも分かってくくださったように、私たちが捧げる賛美も善行も…、また、慈善活動も、あるいは、真摯な悔い改めも、祈りも、献金も皆、すべて、神様が喜んでくださる捧げ物となり得ます。しかし、どうか、皆さんに覚えておいていただきたいのは、それらの捧げ物を捧げる時の、**私たちが神様に喜ばれるような者でなくては**、いくら、その捧げ物自体が良かったとしても、神は喜んでくださりません。そうでしょ？

どうか、皆さん。イエス様が、**ヨハネ 4 章でおっしゃられた、『…父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。』**という、あのみことばを思い出してみてください。また、エペソ 1 章で、繰り返し繰り返し教えられていた、「神をほめたたえるためです…」という言い回し…、私たちが神をほめたたえる者となるために、天の父なる神様は、私たちのために救いの計画を実行してくださり、イエス様は、私たちを、私たちの罪とその裁きから救うために、あの十字架へとかかって、3 日目によみがえってくださいました。また、聖霊は、そんな私たちの内に内住してくださって、今、私たちのことを強く導いてくださっています。

皆さん、知っていました？…旧約聖書を見てみると、この天地や人間を含む、様々な生き物たちが作られたことを伝えるために、神様が使われたみことばは、創世記の第 1 章だけ…、節にして、わずか 31 節ほどです。でも、それに対して、神を礼拝するための細かい規定を伝えるために、神が記されたみことばは、レビ記の中の 7 章に渡って記されてあるそうです。節にすると、243 節'だそうです。つまり、天の神様からすると、ある意味、天地創造に関することよりも、私たちが礼拝の方法を知ることの方が、もっと重要だったとも言えるのではないのでしょうか？

また、特に、旧約聖書を見てみると、そこには、**神の前に来たれとか、神をあがめよとか、神の御前にひれ伏せな**んていう表現がたくさんあることを、皆さんもお気づきだと思います。…つまり、神様は、私たちの礼拝を、1 番に願っておられるのではないのでしょうか？…例えば、**ローマ 1 章などを見ても、神様のことを信じない者たちのことが、こんな風に非難されています。『20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 それゆえ、彼らは神を知っているが、その神を神として…』**その後、どう続きます？⇒『**“あがめず、感謝もせず”、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなりました。**』と続いていくのです。神をあがめる…、感謝をするというのは、礼拝のことです。そうでしょ？

¹ 『礼拝生活の喜び』(ジョン・マッカーサー著)p.11

つい先程、私たちは、神が喜んでくださる捧げ物に関して、代表的なものを見ましたが、じゃあ神様が 1 番喜んでくださる捧げ物とは何でしょう？⇒皆さんは、よくご存知のはずです。**I サムエル 15 章には、こう記されてあります、『22 するとサムエルは言った。「主は【主】の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。23 まことに、そむくことは占いの罪、従わないことは偶像礼拝の罪だ。あなたが【主】のこぼを退けたので、主もあなたを王位から退けた。』**』って…。

⇒**このみことばが教えてくれているように、天の神様が 1 番に喜んでくださるのは、皆さんが、神様の御声に聞き従うことです。しかし、その前段階で、どうしても必要なこと…、つまり、私たちが神様のみことばに従おうとして、そのみことばに耳を傾けるもまた、神は喜んでくださいます！**それは、『**雄羊の脂肪**』以上だって！…正直、私は、過去、「礼拝のプログラムの中で、メッセージの時間は、礼拝にそぐわない。だって、メッセージは、私たちが何も捧げることせず、ただ、神様のみことばを(ポーっと)聞いているだけだから…」って…。

しかし、本当に、そうでしょうか？…天の神様は、私たちが神様に従おうとして、真剣に、そのみことばに対して、耳を傾けることを喜んでくださるのではないのでしょうか？…だって、神様のみことばを聴くこと無しに、どうやって、神様の御声に聞き従います？…もしも、私たちが、神様に対して、かつてのサムエルがそうであったように、『**【主】よ。お話しください。しもべは聞いております**』(I サムエル 3:9-10)という態度で、メッセージに耳を傾けているのなら、そのような態度もまた、神が喜んでくださるのではないのでしょうか？

私が尊敬しているジョン・マッカーサー先生は、「礼拝生活の喜び」という本の中で、キールケゴールという人物のこんな言葉を引用²しています、「人々は、説教者は舞台の俳優、自分たちは批評家であると考えている。しかし、彼らは自分自身が俳優であることを知らない。また説教者は、舞台のそでに立って忘れたせりふを教えているだけであることも知らない。」って…。

⇒いかがです？…私は、全くその通りだと思います。…と言いますのも、ひょっとしたら、一部の聴衆たちは、まるで、礼拝の時間を、その教会の良し悪しを吟味するための時間、また、メッセージは、その牧師を批評するための時間のように勘違いをしておられるかも知れません。しかし、礼拝を捧げているのは、メッセージをしている牧師だけではありません！その教会に集っているクリスチャンたち全員でしょ！

ひょっとしたら、**ここにある礼拝堂のセッティングが、そのような間違っ**た印象を皆さんに与えてしまっているのかも知れません。だって、ほとんど、すべての教会では、説教者のための講壇があつて、それ以外は、皆さんが座っておられるでしょ？…皆さん、旧約の時代に、神様に礼拝を捧げていた、あの幕屋の中に、祭司たちが腰をかけるようなイスがあつたと思います？(もちろん、ありません！)

どうか、皆さん。…もしも、**皆さんが間違っ**たイメージをお持ちであつたら、どうぞ、それらを今すぐ捨ててください。礼拝というのは、神様こそが観客と言うか、その礼拝を受ける側であつて、私たちは皆、その神様に、この礼拝を捧げているのです！そうでしょ？

だったら、私たちは、例え、その礼拝がオンラインのものであつても…、例え、パジャマのままであつてとか、あるいは、スナック菓子や食事を食べながら、とかというのは、果たして、それが、神様の喜んでくださるものかどうか？私が言わなくても分かってくださいませよ(笑)？

² 『礼拝生活の喜び』(ジョン・マッカーサー著)p.163

Ⅲ・大切なことは、**一部**ではなく、**すべて**を捧げることであり！

今度、3つ目に私たちが学んでいきたいことは、「礼拝の内容」とも言うべきことです。神様に喜ばれる礼拝を捧げるために**大切なことは、私たちが“一部”ではなく、“すべて”を捧げること**であります。最後に、そういったことを確認しつつ、今回のメッセージを終わっていききたいと思います。

●礼拝とは、**日曜日**の決まった時間だけのものではない！

どうぞ、もう1度、今日のみことばである、ローマ 12:1 にご注目ください。そこには、こう記されてあります、『…あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。』って…。

⇒このみことばは、何を捧げるべきであると教えてくれていますか？…「私たちのからだ」でしょ？天の神様は、そういったことを、皆さんに期待しておられるのです！どうぞ、そのすぐ後も、ご覧ください。『神に受け入れられる』の後には、何とあります？『聖い…』と『生きた供え物として…』という言葉です。ここで使われてある『供え物』という言葉は、明らかに、旧約時代の「いけにえ」をイメージした言葉(θυσία)が使われています。

かつて、旧約の時代は、動物たちが、基本は神様の前にほふられて(≒殺されて)、いけにえとして捧げられていました。1匹の動物が…、1つのいのちが…。しかし、このみことばは、それに対して、「あなた方は、**生きた供え物として**、自分自身を神に捧げなさい！」ということを教えます。天の神様は、救われた私たち1人1人が、まだいのちを持ったまま、神への供え物となることを望んでおられるのです。

今日私たちが学んだように、天の神様は、私たちが聖書のみことばに聞き従って生きていくことを喜ばれます。私たちが自分の罪や過ちを認めて、悔い改めることも喜んでくださいます。また、神様は、私たちが、この社会にあって、良い行ないをすることや、神のみことばに沿った慈善活動することによって喜んでくださいます。いえ、私たちに与えられた教会や家族のために尽くすことによって、与えられた職場の中において、『**地の塩、世の光**』(マタイ 5:13-16)として輝くことによって、喜んでくださいます。そうでしょ？

皆さん、例えば、あの**1 コリント 6:19-20**のみことばは、どう教えてくれていますか？⇒『**19 あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。 20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現しなさい。**』

ここでも、基本は、先程と同じようなことが教えられています。私たちは、イエス・キリストのいのちという大きな犠牲のゆえに、神様に買い取られた「神の奴隷」なのです。その神様によって救われた、私たちクリスチャンたちは皆、自分のからだをもって、『**神の栄光**』を現わしていくべきです。それを、今日のみことばで使われてある表現を使って言うなら、日々の礼拝を捧げることです。

つまりは、聖書が教えてくれているところの、「正しい礼拝」とは、毎週日曜日の朝の決まった時間に捧げられている礼拝のプログラムのことだけではなくて、私たちの毎日毎日の生き方なのです。…だから、私たちは、日曜日の午前中、教会に居る時だけ、神様のことを意識して、神様に喜ばれることをするのではなくて…、1日の内24時間、1週間の内7日間、そのすべての間中、神様のことを意識して、神に喜ばれる生き方をしていくべきなのです。

じゃあ、そのために、私たちはどうしたら良いのでしょうか？⇒例えば、あのダビデは、**詩篇 16 篇**で、『**8 私はいつも、私の前に【主】を置いた。…**』ということを告白しておりますし、また、**箴言 3:6**には、『**あなたが行く所どこにおいても、主を認めよ。**』ということが命じられてあります。しかし、その逆に、神様のことを

信じていない者たち…、あるいは、悪人たちは、神様のことを、意識していない！というような趣旨のことが教えられてあります。例えば、**詩篇 86:14**、『**神よ。高ぶる者どもは私に逆らって立ち、横暴な者の群れは私のいのちを求めます。彼らは、あなたを自分の前に置いていません。**』って…。皆さん、どう思われますか？本当に、この聖書が教えてくれている、全知全能で、あちこち、世界のどこにでもおられるような遍在の神様を信じたら、その神様のことを普段は意識しない、なんて有り得ますか？(もちろん完全では無いが)…しかし、不信者は、そのように神を意識しないのです(ある種、当たり前のお話ですが…)。

●礼拝とは、**神様への捧げ物であるがゆえに、あなたの信仰**を明らかにしてくれる！

もうそろそろ、今日のメッセージを終わっていかなくてはなりません。そこで、どうか、皆さん。もしできましたら、最後に、**1 サムエル 13:6-11**をお開きくださいますか？…この時、サウル王率いるイスラエル軍は、ペリシテ軍との戦いの中にありました。その時、サウル王が、神様のみことばに逆らった選択をしてしまうので、どうぞ、どこに彼の過ちがあるか、意識してお聞きくださいますか？『**6** イスラエルの人々は、民がひどく圧迫されて、自分たちが危険なのを見た。そこで、ほら穴や、奥まった所、岩間、地下室、水ための中に隠れた。 **7** またあるヘブル人はヨルダン川を渡って、ガドとギルアデの地へ行った。サウルはなおギルガルにとどまり、民はみな、震えながら彼に従っていた。 **8** サウルは、サムエルが定めた日によって、七日間待ったが、サムエルはギルガルに来なかった。それで民は彼から離れて散って行こうとした。 **9** そこでサウルは、「全焼のいけにえと和解のいけにえを私のところに持って来なさい」と言った。こうして彼は全焼のいけにえをささげた。 **10** ちょうど彼が全焼のいけにえをささげ終わったとき、サムエルがやって来た。サウルは彼を迎えに出てあいさつした。 **11** サムエルは言った。「あなたは、なんということをしたのか。」サウルは答えた。「民が私から離れ去って行こうとし、また、あなたも定められた日にお見えにならず、ペリシテ人がミクマスに集まったのを見たからです。』

⇒いかがでしょう？この時のサウル王は、イスラエル軍の戦況が悪かったので、神様からの祝福？を得ようとして、懸命になっていたようです。その結果、彼がしたことは、「神様に全焼のいけにえを捧げる」ということでした。「全焼のいけにえ」とは、数あるいけにえの中でも、最高の捧げ物です。しかし、そのこと、一体、何が良くなかったのでしょうか？…実は、この当時、神様にいけにえを捧げられるのは、祭司などの特別な人物だけでありました。この時のサウルは、自分が直接、神様のいけにえを捧げてはならないということを知っていたのです！分かってはいたのに、それをしてしまったから、サウル王は、最後の 11 節で言い訳をしているのです。

そのように、神様への礼拝は、その者の“信仰”というものを、明らかにしてくれます。正直、今日私は、礼拝中は、パジャマのまま居るべきではないとか、スナック菓子を食べながら、捧げるべきものではないということを申しました。しかし、オンラインでの礼拝を捧げている今、私は、皆さんの様子を知ることができません。いえ、オンラインでは無い、実際の礼拝であったとしても、私は、皆さんの“心の奥底まで”を知ることができません(実際の礼拝なら、ある程度は分かりますが)。

でも、だからこそ！大切なのは、皆さんご自身なのです！皆さんの礼拝を…、いえ、皆さんの生き方や、その心の中を吟味できるのは、皆さんだけです！私ではありません！どうか、今一度、神様に対する皆さんの思いを吟味してみてください！神様への思いが、ある意味、1番明らかになるのは、この礼拝です。この礼拝の捧げ方…、捧げる態度で、大体のことは判断できます。どうか、もう1度、皆さんの、神様に対する思いが…、信仰が…、感謝や献身の思いが、どれほどのものであるのかを、よく、吟味してみてください。それこそが、皆さんの生き方を変え…、皆さんの祝福へと繋がっていくと私は信じます。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。